

超人気FP!

— ABC ネットニュース —

深野康彦の 先取り経済NEWS!!

編集・発行 株式会社 アサヒ・ビジネスセンター 2015年2月6日

今月のトピックス

「住宅ローンの変動金利と普通預金金利はなぜ下がらない？」

さまざまな報道でわが国の市場金利が低下していることはご存じかと思われま。長期金利は過去最低を度々更新し、2015年1月20日には0.20%台を割込み、瞬間0.195%まで低下しました。その後は0.20%台で推移していますが、0.195%で底を打ったとは言えないようです。紆余曲折はありながらも、さらなる低下もありえるはず。わが国の長期金利の低下は世界の先頭ランナーかと思いきや、スイスではなんと10年物国債の金利はマイナスにまで低下しています。余談ですが、これまでわが国の長期金利が有史以来の最低金利でしたが、スイスがマイナス圏まで低下していることから、史上最低（ギネスブック掲載）は返上しなければならなくなりました。

長期金利が低下したことにより、フラット35を始めとする住宅ローン金利も過去最低、長期プライムレートも過去最低水準であることから、事業用資金の融資金利もかなり低下しているはず。また、定期預金金利、個人向け国債の金利も低下しているのですが、なぜか全く動かない金利が存在していることをご存じでしょうか。住宅ローンで言えば「変動金利型の金利」、預貯金で言えば「普通預金金利」です。変動金利型の住宅ローン金利は、厳密に言えば優遇措置を利用することで実質金利は低下しているのですが、店頭に表示されている金利は2009年1月13日に2.475%に引き下げられて以来、全く動いていません。普通預金金利も同様に0.02%から引き下げられていないのです。長期金利は過去最低水準、満期までの期間が5年以下の国債の金利はマイナス圏まで低下しているのに、これらの金利は低下する気配すらありません。理由は、日本銀行の当座預金における付利が影響しているからです。

日本銀行は市中の金融機関と取引を行っていますが、金融機関が余資等を日本銀行の当座預金に積むと、現在0.10%の金利が付くのです。この金利を通称「付利」と呼んでおり、この付利が変動しない限り、変動金利型住宅ローン金利、普通預金金利も変動することはないのです。かつて福井総裁時代の日本銀行は、ゼロ金利政策と量的緩和を行っていましたが、この時のゼロ金利政策のゼロは、日本銀行が誘導目標としている「無担保コール翌日物」と、日本銀行の当座預金の付利金利を指していたのです。当時、ゼロ金利にしたことにより、変動金利型の住宅ローン店頭表示金利は2.375%、普通預金金利は0.001%まで低下しているのです。黒田総裁は、物価目標2.0%の上昇が達成できないようなことがあれば、さらなる追加緩和も辞さないと述べていますが、いよいよ当座預金の付利の引き下げが、昨年末ころから一部のメディアや専門家の間から話題にのぼり始めました。当座預金金利付利の引き下げが実現すれば、変動金利型住宅ローン金利、普通預金金利が6年〇ヵ月振りに引き下げとなることでしょう。引き下げられることがなければ、たとえ長期金利が0.1%割れになっても、また、マイナス金利の期間が5年を超え長くなっても、変動金利型住宅ローン金利・普通預金金利はテコでも動かないはず。